

歯の健康だより スマイル

No. 58

Smile

執筆・監修
(一社)仙台歯科医師会

高齢者のお口の中の変化
高齢者と口腔ケア
スマイルクイズ



仙台市民への 歯科福祉医療サービス

在宅訪問歯科診療

診療日：月曜日～土曜日【予約診療制】
受付時間：[月～金] 午前9時～午前11時30分
[月～金] 午後1時～午後4時15分
[土] 午前9時～午前11時30分

障害者歯科診療

診療日：月曜日～土曜日【予約診療制】
受付時間：[月～金] 午前9時～午前11時30分
[月～金] 午後1時～午後4時15分
[土] 午前9時～午前11時30分

休日救急歯科診療

診療日：日曜日、祝日、年末年始、盆休み
診察時間：午前10時～12時、午後1時～4時

夜間救急歯科診療

診療日：土曜日、日曜日、祝日
診察時間：午後7時～午後11時
※平日の夜間は診察していません。

お問い合わせ先

仙台市青葉区五橋2丁目12-2 仙台市福祉プラザ12F
(一社)仙台歯科医師会 仙台歯科福祉プラザ
在宅訪問・障害者・休日夜間歯科診療所

TEL . 022-261-7345

仙台歯科医師会
ホームページ
<http://www.s-da.or.jp>



Smile 第58号 平成26年4月発行

定価150円

発行 (一社)仙台歯科医師会・地域保健委員会
執筆・監修 (一社)仙台歯科医師会・地域保健委員会
平田政嗣 小菅玲 大山治 梁川誠郎 山崎尚哉 西原大輔
企画・編集 一般社団法人 地球の楽好
多賀城市高崎1-22-1 東北歴史博物館1F TEL.022-389-0931
印刷所 シナノ書籍印刷

仙台市と我が国の

高齡化の現状

高齡とは？

国連の世界保健機関(WHO)の定義では、**65歳以上の人のことを高齡者**としている。

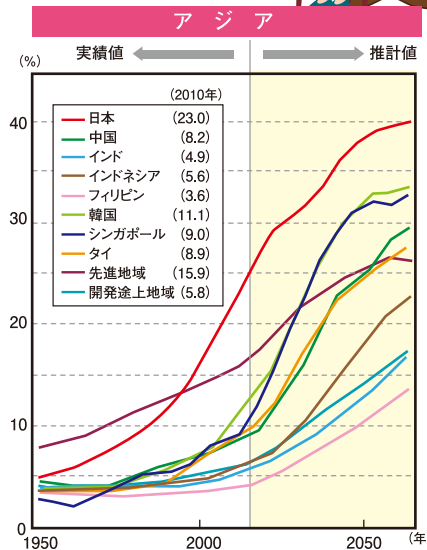
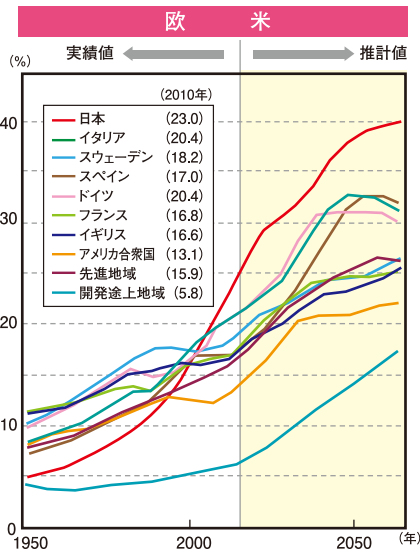
65～74歳までを前期高齡者、75歳以上を後期高齡者と呼ぶ。

日本では？

総人口は平成24(2012)年10月1日現在で、1億2,752万人

- 65歳以上の高齡者人口は過去最高の3,079万人
- 総人口に占め65歳以上人口の割合(高齡化率)は24.1%
- 「65～74歳」(前期高齡者)は1,560万人、総人口に占める割合は12.2%
- 「75歳以上人口」(後期高齡者)は1,519万人、総人口に占める割合は11.9%

日本は世界に例を見ない速さで高齡化が進行しています。



(仙台市、内閣府、厚生労働省のHPから引用)

スマイル58号 発刊にあたって



仙台歯科医師会 地域保健委員長

平田 政嗣

我が国の高齡化は諸外国に例を見ない速さで進んでおり、国民の約3分の1が65歳以上という超高齡社会に突入しました。この冊子をご覧の方も、ご自身がそういう年代の方もいれば、身近に高齡者の方がいらっしゃる方も多いと思います。今回は、そのような方に知っておいただきたい高齡者の方のお口の問題のお話です。高齡になると様々な健康障害が生活を大きく変えてしまいます。お口の中の問題も深刻で、お口の働きは食べ物を取り込み、噛み、飲み込むだけでなく、呼吸や会話など様々な日常生活にかかわる働きがあり、まさしく命の鍵であると言えます。

今回のスマイルでは、まず我が国と仙台市の高齡化の状況をお話いたします。さらに、お口の中からはじめる介護予防のお話や、口腔ケアと介護を必要とされている方のQOLの向上についてご紹介いたします。また、在宅でお口の中のトラブルでお困りの方に是非ご利用いただきたい仙台福祉プラザ事業についてもご紹介いたします。

お口の中をまさしく健康の入り口として、元気な高齡の方が増えていく、そんな社会こそ我々が目指すべき社会ではないでしょうか。

本冊子作成に当たり、仙台歯科医師会在宅歯科診療委員会のご協力を頂きました。駒井伸也委員長をはじめとする委員会の皆さまには感謝申し上げます。



CONTENTS

- 2……スマイル58号発刊にあたって
- 3……仙台市と我が国の高齡化の現状
- 5……高齡者のお口の中の変化
- 8……8020運動とは
- 9……介護予防とお口の体操
- 10……高齡者の口腔ケア
- 12……在宅訪問歯科診療のご案内
- 14……QあんどA
- 15……スマイルクイズ
- 16……仙台市民への歯科福祉医療サービス

仙台市では？

人口は平成25年10月1日で104万8,094人

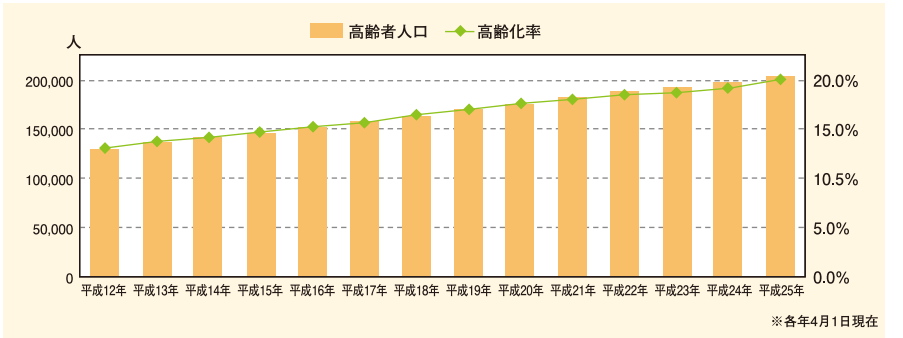
- 高齢者人口は21万1,448人で(高齢化率)は20.17%
- 後期高齢者は10万180人で9.56%

介護が必要な人は？

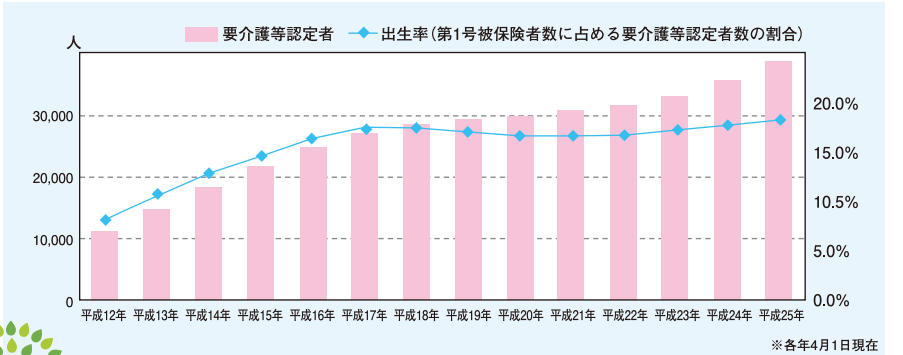
- 日本では、515万人(平成23年度)
- 仙台市では3万5,651人(平成24年度)



65歳以上の高齢者人口は毎年増加し、高齢化率も上昇を続けています。



要介護等認定者数は介護保険制度施行時(平成12年)に比べ、約3.5倍に増加しています。



高齢者の

お口の中の変化

年齢を重ねると
どんな風に変化していくのか
詳しく見てみよう！



加齢に伴う変化

年齢を重ねると、身体の様々な部分に機能の低下を感じるようになります。その中で主なものは、運動能力や免疫力、記憶力の低下などで、身体の様々な部分に大きな変化を及ぼします。

それでは、口腔の変化は どうでしょうか？

お口の中では、歯や歯肉、顎の関節、筋肉、唾液腺、口腔粘膜など様々な部位において加齢に伴う変化がみられます。中でも最も多くの方が悩む

であろう問題、それが歯数の減少です。

お口の中には通常、親知らずと呼ばれる大臼歯を除くと28本の歯が存在します。しかし実際は、70歳代後半になると平均で10本以下まで減少してしまいます。また、一方で全ての歯を健康に維持している高齢者もいらっしゃることも事実です。

さらに加齢は、お口の中の歯に対しても変化を及ぼします。高齢者の歯は長年、食べ物を噛んできたため、歯のかみ合わせがすり減り(咬耗)、その周囲も摩耗していきます。歯の形状の変化は、かみ合わせの変化、

歯並びの変化、あごの動きの変化としてお口の中及び全身に影響を及ぼすことが考えられます。

歯周病による歯の喪失

高齢者が歯を失う最大の原因は歯周病です。歯周病は、細菌の感染によって引き起こされる炎症性疾患です。お口の中の歯と歯肉の境目(歯肉溝)の清掃が行き届かないでいると、そこに多くの細菌が停滞し(歯垢の蓄積)歯肉の辺縁が「炎症」を帯びて赤くなったり、腫れたりします。

そして、進行すると歯周ポケットと呼ばれる歯と歯肉の境目が深くなり、歯を支える土台(歯槽骨)が溶けて歯が動くように



なり、最後は歯を支えることができなくなってしまう。

むし歯による歯の喪失

写真は高齢者に特徴的なむし歯です。歯肉が退縮することにより根面が露出するため生じます。根面が全周にわたってむし歯に侵され、歯根が折れ歯冠がまるごと喪失してしまふ事もあります。



高齢者の歯

すり減りがみられます。また、歯の根元にむし歯ができるのが特徴です。

咀嚼嚥下機能の低下

正常な歯の数を有する人の咀嚼する能力に比較して、歯を1本失った



人の場合、その能力は約半分に低下し、さらに多くの歯

を失った(2〜7本)場合には、7割近く低下するといわれています。また、総入れ歯を装着した人の咀嚼能力は3割程度であるといった研究もなされています。さらにこれ以上の歯を喪失すると、野菜や肉類などが食べにくくなるため、体の栄養状態が悪化します。

唾液の減少にもなり口腔乾燥

高齢者の約40%は口の渇き(口腔乾燥)を自覚していると言われています。加齢が唾液分泌量の減少を引き起こすとは言えませんが、高齢者

鶴ヶ谷プロジェクト



東北大学では平成14年から、医学部の公衆衛生学、老年呼吸器内科、精神神経科、運動学、泌尿器科、耳鼻咽喉科、加齢医学研究所の機能画像医学、そして歯学部に加齢歯科などからなる「鶴ヶ谷プロジェクト」を開始し、各分野が担当する病気の健診を同じ場所で同時に実施しました。
実施した健診内容は、生活習慣、血圧、動脈硬化、認知機能、うつ病、運動機能、口腔内状況など、極めて多岐にわたる、各分野で収集されたデータを相互に分析することにより関連を明らかにしました。
歯科関係についてこれまでに分析した項目は、歯の保有状況と運動機能、骨密度、うつ病などです。

○鶴ヶ谷プロジェクト(結果)

運動機能については、脚力の強さ、起居動作の速さ、10メートルの歩行速度などと歯の本数との関係を分析したところ、歯が20本以上あるの方が19本

以下の人よりも良い成績でした。

骨密度は、男性では歯がたくさんあるの方が高い結果ができました。女性は差がでませんでした。

認知機能の検査では、「今日は何月何日ですか」のような簡単な質問のほか、「桜、猫、電車」などの言葉の復唱、百から七を引く計算の繰り返しを行わせ、記憶力をみるために先に復唱してもらった三つの言葉を再度言わせたりします。全問正解は30点満点で、やはり歯が20本以上ある人の成績が、ない人より良かったのです。

うつ病の調査では、対話式で15の質問をし、10点以上をうつ傾向とします。ここでも歯の保有数が少ない人のほうの数が高く、うつ傾向にありました。

健診参加者のうち希望者には、脳のMRI(磁気共鳴画像)撮影も行いました。海馬、側頭葉の内側部で記憶の中核と呼ばれる所で、アルツハイマー病で最初に萎縮が起きる所ですが、歯の数が少ないほど容積が萎縮していたとの事です。

(東北大学歯学部総合歯科診療部)

菊池雅彦教授 資料より引用

が多く何らかの疾病を抱え、その治療薬を服用していることから、薬の影響による唾液分泌量の低下を引き起こしている事も考えられます。唾液は口腔内を湿らせて口腔粘膜や歯を保護すると同時に、食べ物を噛む、飲み込む、消化することを助けています。



味覚の変化

味覚は舌の表面や口腔内の粘膜に存在する味蕾(みらい)で感知されます。味蕾は若年者ほど多く、高齢者では新生児期の半分から3分の1になるといわれています。

味覚障害は、薬剤の副作用、亜鉛

や鉄などの微量元素欠乏性、全身疾患性、口腔疾患性、原因が特定できない特発性、嗅覚障害を伴う風味障害型などがあり、いくつかの要因が絡み合って発症すると考えられています。
高齢者では高血圧、糖尿病、高脂血症などの全身疾患の罹患、薬剤の服用が多くなります。薬剤性味覚障害は、高齢者の味覚障害の原因の中で最も頻度の高いものの一つで、血圧降下剤、利尿剤、肝治療剤、消化性潰瘍治療剤など250種類以上の薬剤で味覚障害を引き起こされる可能性があります。

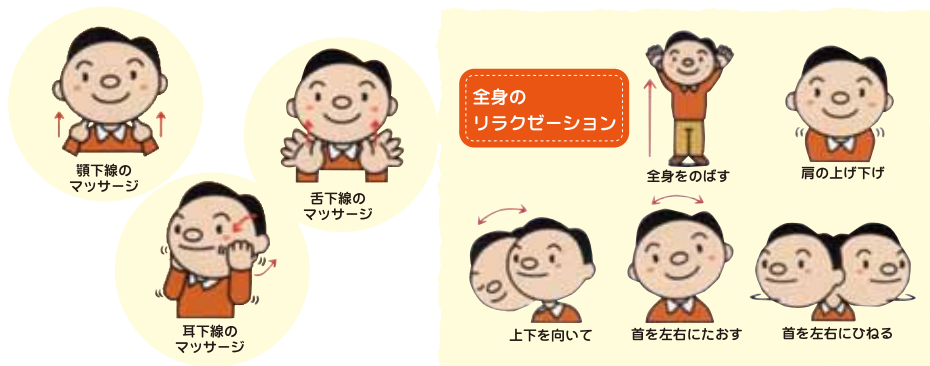


介護予防とお口の体操

高齢者がいつまでも「いきいき」と暮らしていくためには、心身のおとろえを予防することが大切です。お口のケアを実践してお口の健康が維持できると、自分の歯でしっかりかみ、充実した食生活を送ることができます。また、よくかむことで脳の血流が増え、脳の働きが活発になりますので、認知症予防にもつながるなど、想像以上によい影響を及ぼします。



高齢者が一生おいしく、楽しく、安全な食生活を送るために口腔ケアは、介護予防の第一歩なのです。からだに活力があふれ、気持ちが元気になると、生活に積極性が出たり、表情も豊かになります。そんな活力を保つためにもお口の体操を行いましょう。



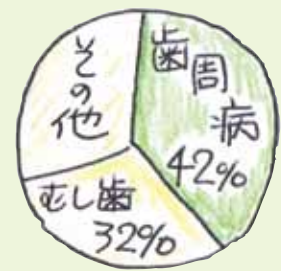
成人の歯は28本あります。第三大臼歯（親知らず）を含めると32本となります。

日本歯科医師会と旧厚生省は、平成元年に「8020運動」を提唱しました。28本ある歯は奥歯からなくなりませんが、前の方の歯が20本位残っていない物を噛む上であまり問題がないと言われ、80歳で20本の歯を残そうと始まりました。平成5年には、80004でしたが、平成17年には、80008.9、



平成23年には8013.9と増加しております。また、8020達成者も38.3%と増加している様です。歯が抜ける原因調査では、歯周病の42%、次いでむし歯の32%で、32歳頃まではむし歯が多く、歯周病はそれ以降に増え始めます。歯周病は、歯を支えている歯槽骨が炎症により吸収され、歯が抜けるというものです。

仙台市は、平成12年度より40歳・50歳の節目年齢対象者に歯周疾患健診を仙台歯科医師会に委託、実施しております。今では20〜70歳の節目健診となっております。これは、歯周疾患の予防と進行を抑制するため口腔状態やライフステ



の喪失を防ぐことを目的とし、ひいては8020運動到達への足掛かりにしたいとしているのです。

8020運動は社会全体または集団としての目標を示したものです。たとえ歯が失われても、人間には義歯があります。義歯によるリハビリをしっかりと行うことにより食事をおいしく味わうことができ、幸せな気持ちになることができます。最後の楽しみは食であり、いつまでもです。お口の健康を保って楽しみのある生活を送りましょう。



口腔ケアで生き生き人生

*口腔（＝お口のこと）

お口の中をきれいにすることやその周囲の機能を高めることによって、食べることで、話すことはもちろん、お口の渇きや咳き込みが少なくなったりすることをご存知でしょうか。また、お口の健康だけでなく、全身疾患の改善やインフルエンザなど感染症の予防にもつながります。お口のお掃除（器質的口腔ケア）、舌や顎などを動かす口腔体操を積極的に行うこと（機能的口腔ケア）などを口腔ケアと呼びます。

口腔ケアを行うことは、虫歯や歯周病予防のためだけでなく、誤嚥性肺炎の予防や糖尿病、脳卒中、心臓疾患の予防や改善、また治療後の良好な口腔内の環境を維持し、全身の健康を守るためにもとても大切です。

特に最近、歯周病は様々な全身疾患の原因の一つと考えられるようになってきました。これらを放っておくと身体全体の健康を害することになりかねません。

いる患者さんは、誤嚥性肺炎を引き起こしやすいと言われてます。呼吸を助けるために口から気道にかけてチューブを取り付けていますが、このチューブによって歯からの細菌はかなり肺に入りやすくなります。口の中の衛生状態を改善できれば、病院や高齢者福祉施設で肺炎リスクを回避できます。寝たきりの患者さんや高齢者は誤嚥性肺炎を起こしやすいので、単に歯の病気を防ぐだけでなく、体全体の健康のためにも口の中をきれいに保つことが重要です。呼吸器の入り口は口なのです。

口腔ケアと認知症の改善

高齢になると口から食べられなくなり、点滴や胃瘻（おなかに穴を開け、チューブで胃に栄養を入れる方法）で栄養をとるようになることがあります。このように口から食べられなくなると認知機能が低下し、物忘れの傾向が進んで、認知症になりやすいたことが知られています。

口腔ケアを行うことにより、口腔の状態が改善すると問題なく口から食べ

ません。

口腔ケアは健康な方はもちろん、高齢の方や入院前、退院後の自宅療養の方、介護を受けている方などにとって、美味しく食事をする、楽しく会話をする、素敵な笑顔をつくることにつながります。また、口腔ケアは普段の健康維持や病気の予防改善など、充実した日常生活を過ごすために自分自身を守るためにもとても重要です。歯医者と歯科衛生士さんと一緒に自分に合った口腔ケアをはじめましょう。

口腔ケアの実践

①セルフケア（家庭で行うケア）

ハミガキや義歯の洗浄（義歯もブラッシングをしましょう）をする。舌も軽い圧で磨きましょう。（舌の清掃は味覚改善にとっても大切です。）また、お口に違和感があったり乾燥が気になる時は、うがい薬や保湿剤をうまく使いましょう。

②プロフェッショナルケア

（専門家による処置や指導）

口腔内の検査やレントゲン検査を

られるようになります。口腔ケアの二次的効果として、嚙めるようになることは老化防止、全身状態の改善にどのような効果があるのでしょうか。

ある市内の脳外科病院に入院した高齢者のAさんは、摂食嚥下障害（食べものをうまく飲み込めない）の症状がありました。そのため栄養は流動食からとっていました。次第に認知症の症状が現れ始めました。恐らくそのまま流動食が続いていたら認知症は進んでしまったかもしれません。しかし、身内の人が「口から食事をしないと認知症になりやすい」という情報を歯科医から聞いていたので、家族はAさんがすきだったものを細かくしゆっくり口から食べさせるようにしたのです。すると、流動食から離れ徐々に嚥下障害も改善し、認知症の症状もなくなっていました。

また、すでに認知症がかなり進み、自分では食事をする事ができなくなっていた女性高齢者がいました。主治医から家族に「胃に管を入れて栄養補給することを考えておいてください」と言われていたのです。ある歯科

行い、家庭では清掃がむずかしい歯垢や歯石をクリーニングします。個人の口腔内の状態や年齢によるリスクを踏まえ、個別の清掃指導、食生活指導などを行います。

*歯周病と口腔ケアの問題について

口腔ケアによる肺炎予防

口の中の健康状態と深刻な呼吸器感染症との間には大変深い関連性があります。また、高齢者で物を飲み込むことに障害（嚥下障害）を持つ方はこのリスクが高くなります。これは嚥下障害と呼ばれる状態で、この嚥下障害を持つ人で、歯周病にかかっている人は口から細菌を吸い込み、肺に入る危険性がより高くなります。食べ物などが食道に入らず誤って気管に入り込むことを誤嚥と言います。歯周病でさらに嚥下障害があると、誤嚥を引き起こしたときに肺に歯周病菌が入り込み、それが原因となって肺炎を引き起こすと考えられています。これを誤嚥性肺炎と言います。特に人工呼吸器を使っ

てはあきらめずに口腔ケアに挑みました。当初は本人が口を開けることができず、開口器を使つての治療だったそうです。しかし、根気よく続けること1年、治療の効果は着実に現れ、自分で歯ブラシを使えるまでになったのです。当然、食事も自分でしっかりとれるようになり、管を入れての栄養補給も必要なくなりました。そして、認知症の症状も目に見えて改善していったのです。

歯ブラシの正しい使い方

●歯ブラシを浴室など雑菌が繁殖しやすい温度の高いところに放置せず、乾燥した場所に置くべきです。コップに立てる場合も毛先を必ず上にしてください。

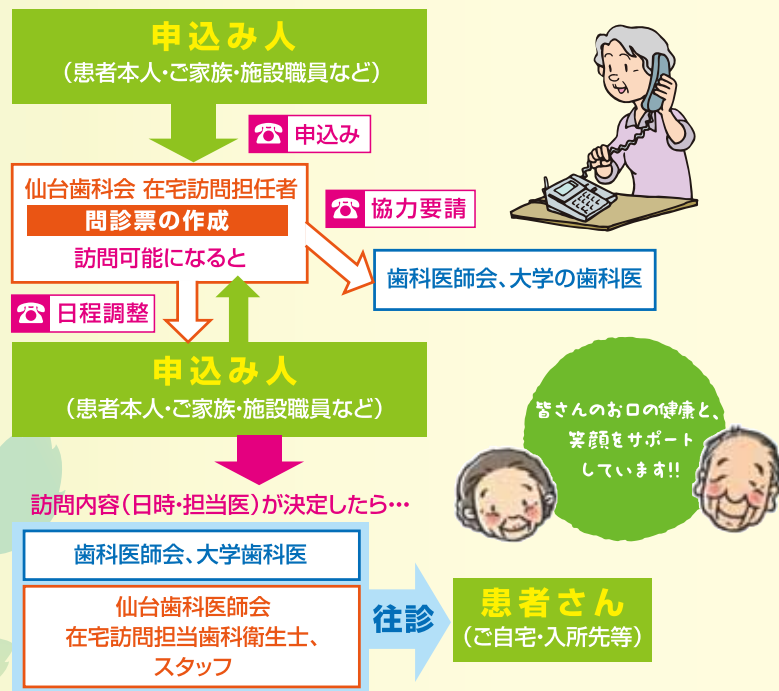
●口腔内に炎症がある場合などは最低でも3週間に1回は交換し、風邪を引いた場合なども完治後に新しい歯ブラシに交換した方がよい。という報告をしています。思った以上に歯ブラシはきたないものですね。

実際の訪問歯科診療の流れ

- 各種保険証・受給者証を確認します。
- 実際にお伺いしてから、ご本人の体調・ご希望をお聞きし、相談しながら治療方針を決定し進めます。
- 治療期間は1回のみ～数か月間と処置内容によって異なります。
- 歯科衛生士による口腔衛生指導(専門的口腔ケア※)も行っています。

※専門的口腔ケアとは(歯科医師の診査、指示により行うこと)

- 家庭や施設で清掃がむずかしい歯垢や歯石をクリーニングします。
- 現在のお口の状況や、治療中の病気、服用中の薬、年齢等によるリスクを踏まえ、個別の清掃指導、摂食機能訓練、食生活指導、禁煙指導などを行います。



治療終了後

- 必要やご希望に応じて定期健診や専門的口腔ケアを行います。

その他

- 歯ブラシや義歯ブラシ、保湿剤等の各種口腔ケア用品に関するご相談にも応じています。「どのようにケアしてよいのか分からない」「何を使って良いのか分からない」というような事も遠慮なくどうぞお尋ねください。

※尚、訪問時にはご家族や介護の方など、必ずどなたかの同席をお願いしています。ご協力宜しくお願いします。

在宅訪問歯科診療のご案内

仙台歯科医師会では、一般の歯科医院への通院が難しい方を対象とし

在宅訪問歯科診療を行っております。

寝たきり・歩行困難や心身障害・認知症等の理由から歯科治療をあきらめていた方も、

お気軽にご相談・ご依頼ください。

- 対象者 寝たきり・歩行困難・重度認知症等による通院困難な方
- 訪問先 自宅・入所中の施設・入院中の病院
- 訪問歯科スタッフ 仙台歯科医師会会員、東北大学病院の歯科医
仙台歯科医師会所属の歯科衛生士、スタッフ
- 診療 原則として、健康保険・介護保険が適用されます。

受付連絡先 電話にて随時受付

(一社) 仙台歯科医師会在宅訪問・障害者・休日夜間歯科診療所

仙台市青葉区五橋2丁目12-2 仙台市福祉プラザ12階

TEL:022-261-7345 Fax:022-216-5133

平日 9時～12時・13時～17時

土曜日 9時～12時

訪問歯科診療までの流れ

まずは上記にお電話ください!!

- ご本人の主訴・全身状態・服用中のお薬・現在の生活(主治医、介護サービスの利用状況等)についてお聞きし、問診票を作成します。
- 現在の状況が健康保険の適用かどうかを検討いたします。
- 在宅訪問担当者より日程調整のご連絡を差し上げます。
- 迅速な対応を心掛けてはおりますが申込み受付後、実際の訪問まで数日お待ちいただく場合があります。また、状況により往診出来ない場合がありますのでご了承ください。
- かかりつけ歯科医が訪問できる場合がありますので、ご希望があればお伝えください。

スマイル

クイズ

問題

クロスワードをとしてABCの順に並べるとどんな言葉になるでしょう？

1	5		8	10
2		6		
3			9	
		7		11
4				

A B C の□に入る文字をかいてみよう

A	B	C
---	---	---

の源は歯と口から

ヨコのカギ

- 端午の節句 _____ のぼり
- 赤ちゃんの毛
- 浮き彫りを英語で
- かまぼこは魚肉の_____
- 荒野を吹きすさぶ
- _____ ストーブ

タテのカギ

- この冊子のテーマです
- 秋田名物 _____ がっこ
- _____ 人は歯が命
- 気仙沼名物? _____ レ
- 地図では上の方角
- 仏教のひとつ _____ 宗

答えを応募して
プレゼントをゲットしよう!!

□へ入る言葉と、住所、氏名、年齢、職業、電話番号、本誌の感想を下記宛先へハガキ又はFAXでお送りください。
抽選で3名様に食事券をプレゼントいたします。

- 締め切りは平成27年2月末日必着
- 当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます。

宛先

多賀城市高崎1-22-1 東北歴史博物館1F
一般社団法人 地球の楽好 スマイル58号クイズ係
FAX.022-389-0932

Q あんど A あなたの疑問にお応えします

歯の治療に必要なの？

A 歯の治療を受けるとき、お口の中の症状だけ言えばいいと思う方が多いかと思いますが、それは間違いです。

内科的な病気や処方されている薬の中には、歯科治療と関連のあるものがあるため、それを知らずに歯科治療を行ったために、以下のような内科的な病気が急激に増悪したり（発作など）、重篤な合併症を引き起こしたりすることがあります。

①循環器系、（心筋梗塞、狭心症、不整脈、高血圧症など）の病気。

心筋梗塞や狭心症などの心疾患に罹っていると、抗凝固薬や抗血栓薬（血液がサラサラになる薬）が処方されます。これらの薬を飲んでいての方は、抜歯などの外科手術後に血がなかなか止まらなかつたり、翌日に出血が起こったりということが起きやすくなります。また、不整脈でペースメーカーや除細

Q 歯科医院を受診すると、初めに「今までにどのような病気に罹ったことがありますか？」とか、「現在飲んでる薬はありますか？」とかい

るのと書かされたり聞かれたりするけど、歯の治療に必要なの？

②呼吸器系、（喘息など）

アスピリン喘息という病気があります。歯科医院ではよく抜歯や外科処置の後に鎮痛剤を処方します。

ところが処方されるこの鎮痛剤を飲んで、急激な喘息発作が起こることがあります。知らずに処方すると取り返しのつかない重篤な発作を起こす可能性があります。

③内分泌・代謝系、（糖尿病など）

糖尿病の患者さんは、歯科治療によるストレスとともに治療をひかえて朝食を抜いたりすると低血糖の発作を起こすことがあります。

④アレルギー

また、糖尿病の方は感染症に感染しやすく傷の治りが遅く、歯周病治療の大きな障壁になります。歯科治療ではいろいろな薬剤や材料が使われます。最も怖いのがアナフィラキ

シーという全身に及ぶショック症状です。短時間で死に至ることがあります。過去に薬剤でも食べ物でもアレルギーの既往のある方は注意が必要です。

⑤骨粗しょう症

最近の高齢化に伴い、骨粗しょう症の薬（ビスホスホネート製剤）が多く処方されているようです。

この薬剤が長期に渡って処方されている患者さんが、歯科治療で抜歯などの顎の骨を露出する処置を受けた後、骨が腐るような骨壊死が起こる可能性があることが報告されています。

昨今の高齢化社会に伴って、歯科医院を来院される方もいくつかの病気をもち、数種類の薬剤を服用されている方が多くなってきました。

このような病気を持った方々でも安全に歯科治療を受けられるように、初診時の問診票の答えは正確に書き込んでください。お薬手帳があれば一緒に提示してください。

また、歯科治療通院途中でなにか新たな病気になる、新たな薬を処方された時も歯科医師に報告してください。

安全に歯科治療を受けてもらうために、患者さんからの情報はとても大切なのです。